令和４年度　第13号
３月 24 日（金）

所沢市立美原中学校

学校だより No.13

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

この一年の学びを生かし、来年度も挑み続ける美原中学校！

【前略】卒業式が終わり、一週間が過ぎたある日、保護者の方から、一通の手紙が届きました。

その中には、多くの方への感謝の気持ちが、つづられていましたが、私が印象的だったのは、「色々多くの方にご迷惑をかけていた子どもが、拝礼して証書をもらえたことに涙が出そうになった」とありました。この文から我が子が、人に感謝の気持ちを伝えることができた、その成長への喜びが、ひしひしと伝わってきました。まさにこの生徒が、多くのものを人から与えられながらも、なかなか感謝できずにいたことを、ことばでは、ありませんが「拝礼」という「敬意と感謝」を形で表せたという。子どもの成長に対する御礼でした。読ませて頂いた私まで心があたたかくなりました。

さて今日は、修了式です。修了の修は、終わりではなく、人偏に縦に一本線を引く「物事を修める」という意味です。通知表の裏に修了証と書いてあり朱色の校印の押印があります。一年間の教育課程を修了した、大切な証明書でもあるので、確認してみてください。

皆さんは、この１年間の学校生活の中で、人それぞれいろいろな思いをしたと思います。その各自に降りかかった課題を乗り越えようと１・２年生ともよく頑張ったと思います。最近では先日の３送会をはじめ、それぞれの場面で一人ひとりの特性を生かした活動の場面を沢山見させてもらいました。そんな場面に出会うと、本当にうれしくなります。私は、年度当初から「主体性」の大切さと「本気の笑顔を体験できる美原中学校」について、お話ししてきました。今、お話しした内容は、正にそのことにつながります。今後も更に人としての着実な成長を期待しています。引きつづき応援しています。

今日は、１年の最後に人に笑顔をもたらす、「幸せ」ということについてお話しします。人は、誰しも幸せになることを願っています。その幸せの形は、人それぞれ異なると思いますが、「幸せには、三つの受け止め方がある」と言われます。一つ目の幸せは、「してもらう幸せ」です。赤ちゃんが、やさしく抱かれたり、あやしてもらったりすると、安心して満ち足りた表情をします。大人でも人から、やさしくしてもらったり、助けてもらったりすると、うれしいものです。これが**「してもらう幸せ」**です。二つ目の幸せは、**「できるようになる幸せ」**です。今まで点数をとれなかった教科ができるようになったり、今まで出せなかった記録が出せるようになったりというように今までできなかったことが、できるようになると、うれしくて、とても幸せな気持ちになります。これが「できるようになる幸せ」です。そして、三つ目は、**「してあげる幸せ」**です。家族に何か頼まれて、それをやってあげると喜ばれます。友達が困っているときに手助けをしてあげると喜ばれます。このように自分がしてあげたことによって人が喜ぶ。そのうれしそうな顔を見て、自分もまた幸せを感じる。これが「してあげる幸せ」です。この間の３年生を送る会などもこ

れにあたる良い機会でした。

最後に命に係わる話をしたいので、卒業式の前日に私におきた話を例として伝えさせていただき、終わりたいと思います。

サッカー部に入っていた私の大学生活は、４年間の寮生活でした。１年中、衣食住を常に仲間と共にしてきましたが、その中でも同じ東京都出身ということもあって、部員の中でも特に親しくしていた友人がいます。卒業式前日の夜、その友人の危篤の知らせが入りました。卒業式を翌日に控え、動きたくても、どうにも動くことができる状況ではありませんでした。「あんなに元気だったのに。何故」と頭の中を駆け巡りました。

過去に、卒業証書を受け取りたくても、命の灯が消え受け取れなかった生徒を知っている私は、証書授与は、一人一人に卒業証書を手渡したいという強い願いがありました。手渡しの授与は、命に対する「敬意」であることを卒業生に話していましたので、とにかく自分がしっかりと式に臨むことだと自分に言い聞かせて当日に臨みました。

当たり前ですが、学校は、皆さんが一日の大半を過ごす場所です。学校は、人と人とが共通の目標を持って、一緒に頑張る場所ですし、人間関係を育む場所でもあります。時には、意味のない諍いがあったり、人がいやな思いをしているのに手をさしのべられない自分に憤りを感じたり、努力が報われない自分が嫌になったり、毎日様々な経験もするはずです。そのような中でも、命の灯を燃やし続けることで、楽しい経験もつらい経験も人を大きく成長させるために必要不可欠な経験ができるのだと思います。誰もが毎日の当たり前の生活が、急になくなることは、想像しにくいことですし、私もそうです。当たり前のように明日が来て修了式も迎えられる日が来るのが当たり前に思っているかもしれません。しかし、私は、それが当たり前のことではないと何度も経験しました。

ですから、これからも予想のつかないことがあるかもしれません。しかし、だからこそ、毎日、一瞬一瞬を丁寧に時を重ね、人を尊重し、多くの困難に負けず辛抱を重ね、命を大切にしながら来年度も「本気の笑顔を体験できる美原中学校」を目指し、いかなる場面でも、みなさんで叡智を結集し、生き抜いていきましょう。

明日から春休みになります。皆さんが一つ上の上級生になるための準備としてある日でもあります。有意義に過ごしてください。元気に新年度がスタートできるよう心も体もしっかり準備して４月の始業式に会いましょう。　　修了式　式辞より

校長見聞録

令和５年３月３日（２０２３年）に校門横に桜を植樹した。もともとその位置には、開校３０周年記念樹として平成１６年（２００４年）１月に植えられた「シキザクラ」という桜が植えてあり、例年、春と秋の年２回咲いた桜だそうで、特に９月中旬から咲き、春先位まで楽しめるとある。(右上段写真)【平成２８年（２０１６年）の１０月２８日、朝日新聞の記事より】

しかし、着任して２年になるが、約２０年の桜の木は、咲かない。どうしてだろうと、専門家に相談したところ、枯れていて倒木の恐れがあるとのことである。やはり素人では、わからないことがたくさんあるものだ。

しかし、校門前の桜は、卒業から入学にかけて咲く花としては、大変重要だ。相談から１年後の令和５年３月３日についに「あまのがわ」と言う桜を植樹（右下段写真）していただいた。天に向かって真っすぐ伸びる珍しい桜だそうで、咲いた花は、芳香もあるとのこと。どんな花が新たな美原中の生徒を迎えてくれるのだろう。中学生のように大きく成長して、早く豊かな香りと美しい花で生徒を迎えてほしい。